

INFORMATION [期間：平成26年]

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/37772

INFORMATION

【期間：平成 26 年】

第30回日本臨床細胞学会石川県支部学術集会

開催日：平成26年2月2日(日) 11時から18時

開催場所：金沢医療センター講堂(外来管理診療棟3階) 金沢市下石引町1-1

内 容：・一般演題

・スライドセミナー

・教育講演「細胞診・生検で overdiagnosis されやすい子宮頸部及び子宮内膜病変の病理」

国立病院機構 名古屋医療センター 病理診断科 森谷鈴子先生

世話人：国立病院機構 金沢医療センター 臨床検査科・病理科 笠島 里美

連絡先：TEL 076-262-4161(代表) FAX 076-222-2758

ゲノム機能解析分野サイエンスセミナー

「単一細胞追跡システムを用いたエピジェネティックな遺伝子発現制御機構の解明」

沖 昌也先生(福井大学大学院 工学研究科 生物応用化学専攻)

日 時：平成26年2月7日(金) 16:00～17:00 場 所：金沢大学医学図書館 2階 十全記念スタジオ

連絡先：学際科学実験センター ゲノム機能解析分野 堀家 慎一(TEL: 076-265-2775) E-mail: sihorike@staff.kanazawa-u.ac.jp

沖先生は、真核生物の1つである「出芽酵母」をモデル生物として用い、出芽酵母染色体上でのエピジェネティックな遺伝子発現の切替メカニズムの解析を進めています。本講演では、これまで得られた結果をもとに、ヘテロクロマチン領域の揺らぎとエピジェネティックな発現制御機構の関係について最新の知見を報告しました。

第24回金沢歯科口腔外科懇話会

金沢歯科口腔外科懇話会は、平成3年に金沢大学歯科口腔外科研修会としてスタートし、毎年回を重ね今年で24回になります。この会は金沢大学附属病院歯科口腔外科に患者さんを紹介して下さった先生と同窓の先生が集まり、歯科口腔外科の臨床と研究に関する研修を行う事を目的としています。本年は、金沢大学附属病院歯科口腔外科から19題の一般演題と特別講演を予定しています。本年の特別講演は金沢医科大学顎口腔外科教授の瀬上夏樹先生にお願いしました。「わたくしと口腔外科、顎関節外科」と題して、顎関節疾患の最先端の診療についてのとても興味深いお話が聞けます。また、瀬上教授の35年間の口腔外科の臨床経験についてもお話しいただけることになっています。

日 時：平成26年2月15日(土) 場 所：金沢エクセルホテル東急にて開催予定

問い合わせ先：金沢大学歯科口腔外科医局 TEL: 265-2444

脳情報分子学セミナー

テ ー マ：ニューログロビンの生理機能の探索と新規機能性蛋白質の創製

講 演 者：若杉 桂輔先生(東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系 准教授)

開催日時：平成26年2月17日(月) 午後5時～

開催場所：金沢大学医学類 F棟 修士課程セミナー室

講演内容：ヒト脳神経細胞に存在するニューログロビン(Ngb)には酸化ストレスに伴う細胞死を防ぐ働きがある。我々はヒトNgbが酸化ストレス応答性のセンサー蛋白質として機能し、酸化ストレスに伴い立体構造を大きく変化させヘテロ三量体G蛋白質 α サブユニット($G\alpha i/0$)に結合し「GDP解離阻害因子(GDI)」として働くことにより細胞死を防ぐことを明らかにした。また、魚類Ngbには細胞外から細胞質内に自ら移行する「細胞膜透過能」があることを発見した。さらに、モジュール構造に基づく蛋白質工学的手法を駆使することにより、培地に加えるだけで細胞質内に導入されしかも神経細胞を保護する新規人工機能性蛋白質を創製した。

The 26th Neuroscience Seminar

「Alzheimer's, Prions and Transmissible Proteins」

Professor Claudio Soto

Director Mitchell Center for Research on Alzheimer's Disease and Related Brain Disorders

University of Texas Medical School at Houston

開催日：平成26年5月26日 15:00～16:00 会場：金沢大学医学類B棟 小会議室

このたび、米国Texas大学教授のClaudio Soto先生をお招きし、下記のセミナーを開催します。Soto教授はプリオン病やアルツハイマー病といったprotein misfolding disorders研究の第一人者です。近年、アルツハイマー病もプリオン病と同様に個体間を伝播するという視点で、重要な研究成果を発表しておられます。

今回、金沢大学においてになる機会にセミナーをしていただきます。プリオン病だけでなく、アルツハイマー病やパーキンソン病といった神経変性疾患が個体間を伝播する可能性など、大変興味深いお話をお聞きすることができますと思います。どうぞお気軽にご参加ください。

第11回日本ショウジョウバエ研究会 (JDRC11)

ショウジョウバエは基礎医学・基礎生物学において非常に有用なモデル動物です。国内におけるショウジョウバエ研究は非常に活発で、国際的に見てもレベルの高いものになっています。ショウジョウバエ研究会 (JDRC) は隔年で開催され、日本国内のショウジョウバエ研究者の交流を促進し、最新の研究成果を発表する場です。全国規模の国内学会で規模は大きくないですが、国際学会では見られないような未公表でユニーク、かつレベルの高い発表が多く、非常に有意義な研究会となっています。発表内容は最新のゲノム編集技術や分子神経科学から、疾患モデルを用いた病態メカニズムの解析まで多岐に渡ります。

石川県での開催は今回がはじめてですが、十全医学会をはじめ、石川県・金沢市・金沢コンベンションビューローのサポートにより、金沢歌劇座において充実した研究会を実現できる見通しとなりました。この場を借りて御礼申し上げます。研究集会自体の学術的な成功はもちろんですが、全国から集まる参加者の方々に石川県・金沢市の魅力を感じて頂けるよう尽力したいと思います。

開催日：平成26年6月4日(水)～6月6日(金)

会場：金沢歌劇座・金沢エクセルホテル東急

北陸実験動物研究会第18回総会・第47回研究会

北陸3県の実験動物研究者、技術者、実験動物取り扱い企業の情報交換の場として、6月7日土曜日の午後より、医学類G棟の講義室で表記研究会を開催する。午後の総会に引き続き、14時よりがん進展制御研究所腫瘍分子生物学分野の高橋智聡先生に「がん研究における種横断的視点」の題で、種横断的な視点から研究対象を眺めることの重要性について、線虫の変異体を用いた遺伝学的研究からヒントを得てレチノブラストーマ (RB) が抑制遺伝子とRasプロがん遺伝子の新しい関係に気づき、マウス遺伝学を用いてそれを実証し分子機構を解明したご自身の経験を踏まえてお話しいただく。続いて、分子病態研究分野の後藤典子先生からは、「増殖因子による乳がん幹細胞制御の分子機構と臨床応用の可能性」と題して、乳がんの摘出検体から得られたがん細胞を用いた、HRG-ErbB3-NFκBパスウェイに関わる遺伝子群の網羅的解析から、リガンドー受容体システムが、がん幹細胞の分子標的として重要であることを見出した成果について紹介していただく予定である。

第3回MRTプログラム・リトリート

第3回MRTプログラム・リトリートを開催。MRTプログラムとはMedical Research Trainingの頭文字をとったプログラムのことで、明日の医療を開拓する人材(研究医)を育成することをミッションとしている。このプログラムは、医学類の正式科目と並行して、希望する学生が授業の空き時間や夕方以降、休暇期間を利用して、各研究室で行われている研究・ゼミナール・論文講演会等に参加するものである。今回は第3回目のリトリートで今年度としては初回となる。MRTプログラム参加学生・関連学生、教員スタッフ、興味のある方々に広く開放して日頃の成果や今後の抱負を語りあう会となる。

日時：2014年7月1日(火) 午後5時～午後7時

場所：金沢大学医学図書館2階十全記念スタジオ

主催：医学類教育委員会